

# 7月号

# School Aid Japan

スクール・エイド・ジャパン



## Dream通信

2010. 7. No.28

### 自分たちで食べるものは自分たちで作る ～自給自足への道～



毎日水遣りをします。



皆で一緒に作業しています。



皆さんこんにちは。7月に入り、中学生は夏休みになりました。しかし園の子どもたちは、朝から補習に自習にと、勉強に励んでいます。暑い中、時には遊んだり、お手伝いもしたりしますが、一日の大半は勉強をして過ごしています。その姿は、職員の私たちから見ても、実に頼もしく、微笑ましいものであります。

今回の Dream 通信では園の3つの柱である、1.勤勉 2.勤労 3.思いやり の中から、日々の農作業を通して『勤労』について報告します。

#### かぼちゃ等の植え付け

今、園では火・木・土・日の週4日、農作業に取り組んでいます。また、今年に入って、園の裏の2haの土地で、『自分たちで食べるものは自分たちで作る』を目標に、トラクターを使って本格的に開墾したその広大な土地で、米やとうもろこしの種を蒔き始めました。

そんな中、将来 SAJ Farm で働きたいという志を持った男の子2人と 農業に興味のある男の子2人の計4人が、職員の指導のもと、かぼちゃを種から育て始めました。

かぼちゃは通常、3月に種を蒔き、8月から9月にかけて収穫されます。今回子どもたちは6月に種を植えたので、うまくいけば、11月頃の収穫となります。種を蒔き、芽が出て、葉が4・5枚の大きさになったら畑に定植します。子どもたちは1人4つずつ種をもらい、毎日水を遣り、大事に育てていたのですが、やはりそう簡単にはうまくは行きません。天候や虫の影響を受けてしまい、最初は16本の苗から始まったかぼちゃも、今では半分の8本まで減ってしまいました。しかし、失敗にこそ学ぶべきことはたくさんあり、残った苗には今まで以上の愛情を注ぎ、各々が知恵を振り絞って育てています。7月上旬に裏の畑に定植したばかりで、現在はまだ50cmと、まだまだ先は長そうですが、一生懸命に育てている子どもたちを見ていると、収穫がとても楽しみです。

## 園で育てた鶏を初めて食べました

園では昨年より、鶏の飼育を始めました。目的は2つあります。1つ目の目的は『自分たちで食べるものは自分たちで作る』の一環として。2つ目の目的は、動物と一緒に生活することで、命の大切さを学んでもらう為です。

最初は雄鶏1羽と雌鶏10羽の計11羽から始まった飼育も、今は雛も合わせて37羽にまで増えました。そこで今回初めて、園で育てた鶏のうち6羽を子どもたち職員全員で食べることにしました。

園の職員が、鶏の処理をしました。カンボジアの田舎では、家で処理するのが普通です。誰でも処理できます。園の子どもも手伝いました。処理した後、湯通しします。そして、羽を全てむしり取り、産毛を剃り、そして水で何度も洗い流すと、やっと日本でも見たことのある鶏肉の姿に。内臓なども全て取り出し、湯通しした血や生姜などと一緒に油で炒めました。今回は食べなかった他の部位に関しても、豚の餌にしたり、畑の肥料にしたりして、簡単に捨てることは決してしません。日本人も見習わなければならないと改めて感じました。

調理担当職員が鶏1羽を処理しているところを見学させ、子どもたちにも体験させようということで、数人の子どもたちにも挑戦してもらいました。中には『家でやったことある』と言う子もいて、慣れた手つきで捌いて、職員を驚かせる子もいました。最初は目を背けながら見ていた子も、羽をむしったり、きれいに洗ったりと、慣れない手つきながらもきちんとお手伝いしていました。

最後には、子どもたち74人と職員全員でおいしくいただきました。おいしく食べることできっと鶏たちも喜んでくれたことでしょう。

今回園では、鶏を育て、処理し、調理し、そして最後に食べるという流れを体験することで、園の子どもたちは、人間は様々な命に生かされているということと、命の大切さについて学びました。

とてもおいしかったです！！



最初は恐々見てました。



日本でも見たことある姿に…！



園の子どもたちもお手伝いしました



完成品

